

芸備線ストロール② **平子駅**

ひらこ

「河原の古戦場と近代的なダムで 秋晴れの一日を満喫」

11月16日(火)午前7時過ぎ、庄原市中本町にある自宅から、車で高駅に向かった。朝の冷え込みで霧が濃く、ヘッドライトを点灯。15分ほどで到着。駅前に駐車して駅舎に入った。

無人のホームに立つと、線路を挟んで向かいのホーム

(跡)で咲いているケイトウが枯れてきている。駅舎の周辺から乗り込んで、整理券を取

7時41分の備後落合行きワンマンカーに乗車。後部扉

平子は無人駅だが、こぢんまりとした駅舎(写真上)があり、4畳半ぐらいのスペース

6分程で平子駅に到着。前方扉の料金回収機に、用意しておいた190円と整理券を

駅前の道を西城方面にしばらく進むと、国道183号線に出た。そのまま西城川沿いの道を歩いた。右が山側で、

大小の水路から水が流れ落ちてくる。今回も至る所に水路があつて、流水の音が聞こえてくる。

る。西城紫水高校の生徒がばらばらと坐っている。対面の女生徒が背もたれて熟睡？ガンバレ、と心の中でエールを送った。

昭和27年、高駅と備後西城駅の間に新設開業。所在地は西城町平子。地元の話では、開業当時はまだ蒸気機関車が走っていて、冬場になるとスキー客で混雑していたという。まだ自家用車が普及する前の時代で、網棚にはスキー板が載せられていたようだ。



平子駅から歩いて10分ほどで、果樹園が広がる先の山裾に石の鳥居が見えた。掛開(かけがい)神社、主祭神は天照大神(アマテラスオオミカミ)で、配祀神に思兼神(オモイカネノカミ)。天照大神が天石屋戸にこもったときに、天照大神を連れ戻す方法を思兼神が考えたと言われている。知恵の神、学問の神とも言われていて、入試合格にご利益があるようだ。収穫の終わった果樹園の脇

の小道に入って、苔むした石段の前に出た。イチヨウの黄色い絨毯を踏みしめて参拝(一頁写真下)。銀杏(ぎんなん)の実が拾う人もなくたくさん落ちていた。

国道に戻ってさらに西城方面に進むと、古い石垣で出来た遺構が山裾に現れた。上段にトンネルの入り口のような穴が二つ開いている。「市史跡平子の石灰焼成窯遺構」と看板に書かれている。肥料用の石灰を作るための施設で、背後の山に露出していた帝釈石灰岩層から石灰を採掘して窯で焼成する。昭和9年に火入れされ、昭和20年頃まで操業されていたという。

国道の反対側の歩道に渡って、平



子方面にしばらく戻ると、レトロなアーチ型の橋がある。欄干の親柱に「夢乃橋」の表札、橋ができた喜びが溢れている。橋を渡れば西城町栗で、そのまま直進すると芸備線にぶつかる。沿線の道を右に行けば、備後西国三十三か所霊場の二十一番札所である浄久寺に行くことができる。歩いて20分もかからないだろう。東城久代から西城大富山に居城を移した宮氏が菩提寺として建立した名刹だ。今回は西城川の下流に向かった。

部分は物置として利用されていた。身分の高い人が通りかかったときに、二階から見下ろす危険を避けるためだと、三次市の卯建(うだつ)のある旧家のご主人に教えてもらった。田畑の周囲には電気柵が張り巡らされている。構造改善されて、飼料用の稲の白いロールが転がっている。田んぼの地域に入ると電気柵はない。獣害も転作の理由なのだろう。また、刈り入れのされていない稲田もあって、黄金色の景観(写真上)を堪能した。

さらに進むと、西城川の堰が見える。その下流が「段司河原」(写真中)で、西城・大富城の宮氏と篠津原・雲井城の山内氏が戦った場所だとされている。広々とした河原の石に腰かけて、戦国の兵(つわもの)どもに献杯、といきたいところだが、缶コーヒーで我慢する。

国道をさらに進むと「庄原ダム」の標識、橋を渡って突き当りを左に折れると、再び庄原ダムの標識。湾曲した道路を登りきると高架橋に出て、巨大な人工物が姿を現した。西城川の支流の大戸川に、洪水調節や生活用水のために新設されたダムで、2016年10月27日に完成。

管理事務所でダムカードをもらった。国土交通省及び独立行政法人水資源機構が管理するダムで無料配布されている。表面にダムの写真、裏面にデータが記載されていて、ダムマニアのコレクション・アイテムである。

ダムの天端(最上部)を渡って貯水湖(大戸川ダム湖)を周ると、湖にせり出した広いテラスがある。周囲を黄葉した山に囲まれて、前方はダムの向うの山なみまで一望できる(写真下)。屋根付きのベンチに腰かけて、焼きそばパンとコロケパンで少し早い昼食。晴れ渡った空に赤とんぼが飛んでいた。(次回は備後西城駅、情報提供を歓迎します。)

赤坂真理 『東京プリズン』

—— 天皇の戦争責任に迫る

秋篠宮家の長女「眞子さん」が国外に脱出したのは、天皇制という大きな鎧（よろい）を脱ぎ、普通の暮らしをしたいと渴望が秘められていると私には思えてなりません。では、「天皇制」とは何なのか。海外からの視点をかみしめて吟味しているのが、赤坂真理『東京プリズン』（12年刊、河出書房新社）です。出版当時、「きわめて重要な問題作だ」と注目を集め、「毎日出版文化賞」を得ています。

作品は、440頁の長編。様々に意匠がこらされています。骨格は2010年現在の作家の「私」が、1980年に米国のハイスクールに留学している10年生（日本では高校1年生か）で16歳の「私」である「マリ」との間を、時空を超えて行き来し、「私とは何か」「日本とは何か」を問う仕組みです。

マリは、「日本について報告せよ」というディベート（討論）形式の進級試験を課されているのです。マリは、「自分は何ものか」「自分は何か知らない」と悩み、揺れ動くのです。

「天皇の降伏」については、「天皇

は一貫して何ひとつ宣言していない。神であることも。負けた理由は、最初からシステムにあった」とマリ。周囲から、「マリ、君は天皇に戦争責任はないと認めることになるぞ」と。マリは、天皇制について様々に思索を廻らせた挙げ句、1年で米国を

また読んでみたい本⑥7

青年たちに

音谷 健郎



【河出書房新社版の表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介しています。

第67回は、赤坂真理の『東京プリズン』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

去ります。

拡大する方法「恋」が彼らの主な

仕事で、歌（和歌）は主要なディス

プレイ（誇示行動）であり、女々しい

と、迫られるのです。マリは思わず、

「彼（天皇）は男です」と叫ぶのでした。

ここまで作業を進めて、筆者の私

（音谷）は、この本を取りあげたこと

は失敗だったと思うようになりまし

た。というのは、出版直後に話題に

なった時には、「天皇制」への新鮮

な見方に感激した記憶があったので

す。当時の世間の論調もそうでした。

だが、時を隔てて冷静に読むと、

マリは何一つ確信を持っているわけ

ではないのです。ディベートの立場

上、「天皇の戦争責任」を主張しま

した。米国の級友からの攻勢に対し

ては、「天皇個人」を擁護する側に

回ったりしています。マリに、天皇

制に対する確とした姿勢を託すの

は、無理だったのです。日本の天皇

制は、海外の国には、様々に写るこ

とを知らればそれでよかったです。

が、次のことは読み取れます。米

国自体が、日本にデモクラシーを植

え付けるとしながら、統治の都合で

「象徴天皇制」という形で日本の従

来の仕組みを維持したのです。それ

故、米国には明快な論理が確立して

いないのです。目新しさだけでした。

それからの幾星霜、デモクラシー

が進むなか、「象徴天皇制」は、歴

史の試練のなかで旧態依然の甲冑に

なったのではないのでしょうか。眞子

さんの国外脱出は、それを物語って

いるように思えてなりません。

この「また読んでみたい本」シリー

ズは、今回で終わります。22年1月

号からは、新しいシリーズが始まり

1 植物画とは

写真技術の飛躍的な進歩にともない、精巧なカラー写真で植物の生きた姿が正確にしかも精密に撮影され、クローズアップ撮影によって花など、植物の各部分の微細な構造までを容易に写し出すことが可能になった現代、植物学者と写真家が協力して、例えば最近平凡社から発行された「改訂新版 日本の野生植物」(全5巻)のような日本産の種子植物を網羅した「日本種子植物誌」ともいふべき専門書から、一般向けの美しい植物図鑑まで、数多く出版されている。しかし、写真とは全く縁がなかった時代はどうであったであろうか、ツェンベリー(Thunberg, C.P., 1748 ~ 1828)が著した「Flora Japonica」(図1)を例に探してみたい。

ツェンベリーの「Flora Japonica」は、日本最初の植物誌である。ツェンベリーは1775(安永4)年8月から1776(安永5)年12月まで、長崎にあったオランダ商館の医師として滞在し、その間、1776年3月4日、江戸参府に随行して江戸へ行き、その年の6月29日に長崎に戻っている。「Flora Japonica」に記載されている植物は、長崎で採集されたものも多いが、江戸参府旅行中に採集された標本も数多くふくまれている。

余談であるが、江戸参府の旅で、小倉の宿の庭でみつけたアオキとナンテンは標本にし、いずれも新属新種として「Flora Japonica」に記載し、箱根越えの際に採集したカエデは新種 *Acer pictum* (和名イタヤカエデ)と記載されている。

「Flora Japonica」は、1784(天明4)年にライプツヒの書店から発行された。これは日本最初の植物誌で、日本植物学史上、画期的な意味を持つ業績である。これまで日本の植物は、例えばオランダ商館の医師として1690(元禄3)年~1692(元禄5)年に来日し、江戸参府に随行したケンペル(Engelbert Kaempfer, 1651 ~ 1716)が、「廻国奇観」などでヨーロッ

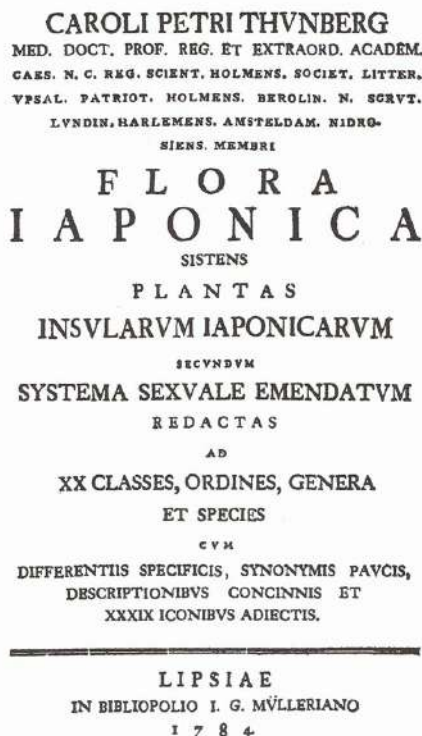


図1 Flora Japonica の扉

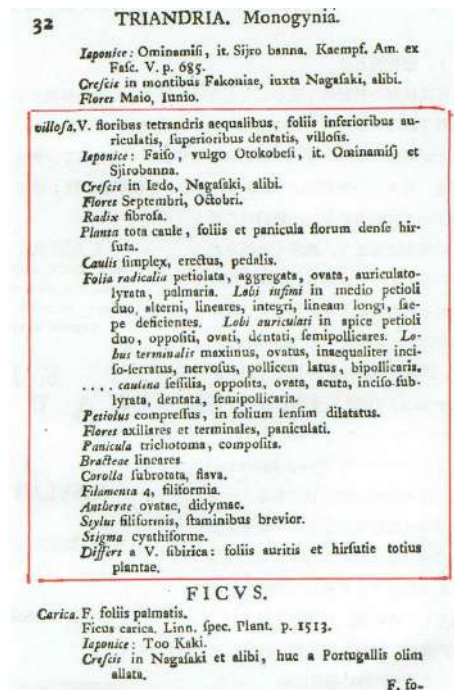


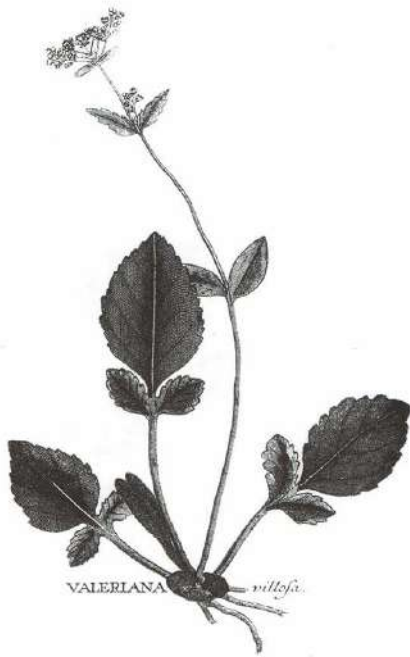
図2 オトコエシの記載 (Flora Japonica, p.32) 赤枠のところ

虫と草木と人びとと ⑤7 中村慎吾 「植物画とは何か — 日本の植物図譜を中心に」

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動物学などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

Flor. Jap. p. 32. Tab. 6.



S. N. Cassin. del.

図3 VALERIANA villosa (オトコエシ)
(現代の学名は Patrinia villosa)

パへ紹介しているが、植物を二名式で記載する以前のことであるから、それは今から見ると、止むを得ないことである。廻国奇観にはナギのみごとな図がみられる。しかし、二名式で記載されていないので、後にツウンベリーが Myrica Nagi と命名し、二名式で記載している。なお、現在のナギの学名は Naia nagi(Thunb.) Kuntze である。

従来、断片的にしか紹介されていなかった日本の植物を若干の不備があるものの、リンネの「SYSTEMA NATURAE」(自然の体系)に基き、日本の植物すべてに学名を二名式で決定した上で、種子植物 735 種は 19 綱 62 目に分類し、シダ植物・蘇類・苔類・菌類は第 20 綱 隠花植物とし、それらは 4 目に分類している。そして、それぞれの種は学名、定義、既知種の場合はその出典、生育地、花期、形態、変異、用途などがラテン語で簡潔に記されている(図 2)。しかし、間違いで日本産とされたものも相当数含まれているから正味の日本産植物は約 530 種であるが、日本の植物相が初めて近代の植物学のレンズを通して明らかにされたことになる。「Flora Japonica」は、八つ折版、本文 418 ページ、39 の図版で構成されていて、ツウンベリーが新種として記載したオトコエシは 32 ページに(図 2)、そして、図版 6 に描かれている(図 3)。

「つれづれ歌談」18

松岡初枝

貧窮問答歌 山上憶良(後半答)
天地(あまつち)は広しといへど
我が為は狭(さ)くやなりぬる
日月(ひつき)は明(あか)し
といへど 我が為は照りやたまはぬ
人皆か我のみやしかる わくらばに人とはあるを 人並に我れも作るを 綿もなき布肩衣(ぬのかたぎぬ)の 海松(みる)のごとわわけさがれる かかふのみ肩にうち掛け 伏盧(ふせいほ)の曲盧(まげいほ)の内に 直土(ひたつち)に藁解き敷きて 父母は枕の方(かた)に 妻子(めこども)は足の方に 囲み居て憂へさまよひ かまどには火氣(ほけ)吹き立てず 甑(こしき)には蜘蛛の巣かきて 飯炊(いいかし)くことも忘れて ぬえ鳥ののどよ



ひ居るに いとよきて短き物を端切るといへるがごとく しもと取る里長(さとおさ)が声は 寝屋処(ねやど)まで来たち呼ばひぬ かくばかりすべなきものか 世間(よのなか)の道

天地は広いが、私には狭くなったのか。日月は明るい、私には照らないのか。皆もそうか、私だけなのか。人として生まれ、人並みに働いているが、綿も無い着物は海草のように破れ、ぼろを肩に掛け、倒れかかった家の土間に藁を敷き、父母は枕の方、妻子は足の方で私と共に嘆く。かまどに火も無く、蜘蛛の巣が張り、飯も炊けず呻いている。少ししか無い物をもっと出せと、里長が税を取り立てる。どうしようもないのかこの世はね。

庶民の生活を直に見知っていた憶良。若い頃に地方官であったからこそその共感、大伴家持も同様です。防人の歌や東(あずま)歌などを多く集め、天皇達の歌と並べて残した意味は大きいのです。人の哀しみ喜びなどの力強い命の営みが詠み承がれた歌の数々。その一つひとつが、珠玉の存在といえます。

「こんにちは」

小さな声で、ツトム君がペコンとお辞儀した。中学一年生だというのが、小柄で華奢なので、小学生にしか見えぬ。うちの店に来てくれるのは、これで三度目だ。

最初は、重そうな大人用のリュックサックを背負ってやって来た。「すいません。こちらで本を引き取ってもらえませんか？」

ときどき、こういうお客さんが来る。

「申し訳ないけど、十八歳未満だと保護者の同伴が必要なんだよね」

古物営業法には年齢制限の規定はないのだが、民法では未成年（二十歳未満）、広島県の青少年健全育成条例では十八歳未満の者からの古物の買受をしないように自主規制を求められている。

たいがいはいはこれで諦めるのだが、二度目は父親を連れて来た。「けっこう、面倒なんですね」

本当に面倒そうな顔で、必要書類に記入した。三十九歳、市役所勤務。「車に積んで来たんですが、降ろしてもいいですか？」

広島みかんの段ボール箱が三つ。中の本を確認すると、中国関連の古い書籍がかなりの割合を占めてい

る。例外的な一冊が目にとまった。石川達三の「蒼茫（そうぼう）」、昭和十年の第一回芥川賞受賞作だ。石川達三が秋田県横手市出身で、二〇一四年に秋田魁新報社が出した復刻版だが、新刊本のようにきれいな本だった。

「本の査定をしますから、少し時間をもらえますか？」

「査定？ お金がもらえるの？」

お年玉

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑥3

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

驚いた顔をした。

「処分場を持って行くつもりだったんですが、この子が嫌がりましてね。古本屋さんなら、昔の本でも引き取ってもらえると言ひ張りまして。いつもは素直な子なんですが、今回ばかりはやけに強情で……」

これから約束があるというので、査定の結果は後日、電話で報告することにした。

石川達三の「蒼茫」には思い入れがある。若い頃、生き方に煮詰まっていた時期だった。生活費を稼ぐために、チリ紙交換の仕事をしていた。立場（タテバ、古紙買取業者）の会社から軽トラを借りて、古新聞や段ボールなどを回収する。集めた古紙の買取価格から、軽トラのレンタル料、ガソリン代などの経費を引いた金額が取り分になる。日銭を稼げ

いたが、ゴミを持ち込むようで、敷居が高くて尻込みした。それは文字通り、ゴミとして集積場に出されていた本だった。ひもでくくられた古本の束のいちばん上の本が目に入った。石川達三の「蒼茫」、無職のときに図書館に入り浸っていたわたしは、「芥川賞全集」を読んでいた。「蒼茫」が第一回の受賞作だということを知っていた。

太宰治の「逆光」も最終候補作に残っていた。すでに三度の自殺未遂を起こしていた太宰は、生活を立て直すためにも受賞を渴望したが落選、自分に否定的な見解を述べた川端康成を非難して、「芥川賞事件」とよばれる場外乱闘が世間の耳目を集めた。

るのがありがたい。古紙価格が高かった時期で、「毎度おさがわせしております……」のアナウンスが町中に溢れていた。

回収品の中には、ゴタと呼ばれる古本や古雑誌も入っている。新聞に比べるとかなり値が下がる。

「古本屋に持っていけば、意外と高値がつくこともあるよ」

チリ紙交換の先輩にそう言われて

青地に「蒼茫」と白抜きされた文字の下に、麦のイラストが描かれた本のカバーはかなりくたびれていたが、「これは金になる」と直感した。おそろおそろ古本屋に買取を依頼すると、奥付を確認した店主の顔が輝いた。

「これはすごい。改造社が昭和十年に発行した初版本です。状態も悪くない。どこで手に入れたんですか？」

躊躇したが、チリ紙交換をしていることを正直に話した。



「いいことをしましたね。トイレッ
トペーパーになる運命からこの本を
救ってあげたんです。ちょっと大げ
さかもしれないが、貴重な日本の文
化を、あなたが守ったんですよ」
買取金額は確か五千円だったよう
な気がするが、よく覚えていない。
初老の店主の興奮した声が、今でも
耳に残っている。

「本がずいぶん、きれいになってい
ただけ、君が掃除してくれた
のかな？」

ツトム君がおずおずと頷いた。
「本が汚いと、引き取ってもらえな
いと思って。そうなら、じいちゃ
んの本がかわいそうなもの」

埃まみれの古本と格闘している人
間にとっては、天使の言葉だ。埃や
カビは序の口で、昆虫の死骸や本の
函の中で冬眠していたヤモリが出て
きたり。古本を詰めた段ボール箱の
底に、大量のカメムシが蠢いていた
ときには悲鳴を上げた。

「おじいさんと仲が良かったんだね」
今度はしつかりと二回、頷いた。

「でも、しばらく会っていなかった
ようだね。五年？ いや、来年は寅
年だからもう六年か」

ツトム君が不思議そうな顔をし
た。

「お父さんから聞いたの？」

「うん、まあ、そうだね……」

言葉を濁してごまかした。

「ばあちゃんが死んでから、じいちゃ
んの家には行ってないんだ。よくわ
からないんだけど、父さんとじい
ちゃん、ケンカしてたみたい」

「いわゆる、オトナの事情というや
つなのだろう。」

「中国について書かれた本が多いよ
うだけど、何か理由があるのかな？」
「ちゃんとした答えを期待していた

わけではなかった。

「じいちゃん、昔、中国に住んでい
たことがあるみたい。マンジュウ
……、違うな、そうだ、マンシユウ
という場所、知ってる？」

なるほどと納得した。

「昔、中国にあった国の名前だね」
「そこで農業をしていたんだって」

開拓団として満州に移民。日本の
敗戦で帰国してからも、かつては自
分の夢を託した国の行く末が気に
なっていたのだろう。石川達三の「蒼
茫」があった理由がわかったような
気がした。ブラジルへ移民する人た
ちの、日本を離れるまでの8日間を
描いた作品なのだ。感情移入できる
部分があったのだろう。

「これは本の代金で、お父さんに渡
してください」

封筒を手渡した。予め父親に電
話で買取金額を報告していて、ツト
ム君が領収書を言付かっていた。

「ちょっと早いけど、これは君への
お年玉」

ポチ袋を手渡した。

「天国のおじいさんからだよ」

温泉に入っている猿のイラストが
描かれている。「蒼茫」の奥付のペー
ジに挟んであった。

今日は、冬至である。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。
無料の漫画ルームもあります。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやって
います。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 15,000円 >

特別連載③

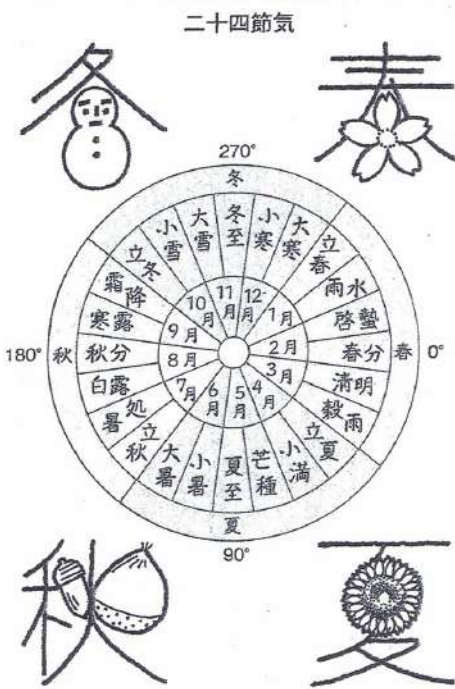
「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

二十四節気とは 古くは、冬至を基点にして、次の冬至までを一太陽年とし、これを二十四に等分した。

その後、地球が太陽の周りを楕円軌道により公転しているという知見により、黄道360度のうち「春分」をスタートの0度と定め、90度が「夏至」、「秋分」が180度、「冬至」が270度としている。

旧暦では、この90度ずつをさらに6分割し、合計24にした。これが『二十四節気』である。太陰暦を用いつつ、太陽の動きを基にした「二十四節気」



を取り入れることで、季節も読める暦として編み出されたのが旧暦なのである。

七十二候とは 二十四節気の各一気をさらに細かく三等分して、一年を五日ごとの七十二候に分け、二十四節気と同様にそれぞれの時候につけた名称をいう。およそ五日ごとの時候の推移を短い言葉で表したものの。

節句とは 節句とは、正しくは「節供」といい、もとの意味は季節の変わり目、節日に厄払いをし、無病息災を祈るために神に季節の食物を供える。ことに由来している。

節供といえは、一月七日の人日(じんじつ)「若菜摘み・七草粥」、三月三日の上巳(じょうし)「桃の節句・雛祭り」、五月五日の端午(たんご)「菖蒲・尚武の節句」、七月七日

の七夕(しちせき)「七夕・棚機・乞巧奠(きつこうてん)」、九月九日の重陽(ちやうやう)「重九(ちやうく)・菊の節句」である。これらを総称して「五節供」という。これは暦の中で、奇数(陽)が重なり、偶数(陰)になるとして、それを避けるため季節の旬の植物から生命力をもらい邪気を祓うという古代中国の習わしと日本の農耕風習とが融合して始まったとされている。

この五節供は、改暦以前(旧暦時代)には、年中行事を行う日の中でも、特に重要視された日であった。それを表わすのに「怠け者の節供働き」「節供倒し」という諺があり、節供の日には農作業などの仕事を集落全体で休む習慣があった。

しかし、現代の私たちにも馴染み深い年中行事だが、三月三日の桃の節句には桃の花を見ることは出来ず、七月七日の七夕祭りには梅雨時期で、天の川は見られないというように、伝統行事の季節感は薄れてしまっているようだ。これは、明治六年の改暦と共に廃止されたが、国民の強い意志により、時の政府は新暦の日付にそのまま置き換えることで容認したためである。

一月七日人日(七草粥) 中国の古

い習俗で、正月一日から六日までは獣畜を占い、七日に人を占うところから来ている。正月一日を鶏の日、二日を狗の日、三日を猪の日、四日を羊の日、五日を牛の日、六日を馬の日、そして七日を人の日とする風習があった。それぞれの日には、その動物を殺傷しない、七日の日には犯罪者に対する刑罰は行なわないことになっていた。そして、人を大切にする日に作られた七種菜羹(七種の菜が入った吸い物)を食べる風習もあった。

日本には平安時代に伝わってきた「七種粥」「若菜摘み」と結びつき「七草粥」となったと考えられている。江戸時代「人日」を幕府の公式行事として、祝日にして将軍以下「七草粥」を食べ祝った。この風習が一般の人々に広まって行ったのである。

注目すべきことがある。それは「古事記」以前の文献「ミカサフミ」に「コゲフ ハコベラ キタヒラコ スズナ スズシロ スセリナツ コノナナクサニ ノゾクナリ」と記されている。遙か昔にも七草を食することに、汚れを祓っていたと思われる。

(次号に続く)

海外旅行ツアー「コンダクター・エピソード」①

ブラジル・「アマゾン」の ワニ狩りと日本食堂」

山崎 允まこと

私が旅行会社の添乗員をしていた頃の体験談。まずはブラジル連邦共和国から。

リオデジャネイロ・コパカバーナ海岸で、現地ガイドからの忠告。「海岸での散歩は、指輪を外してからにして下さい!」。高価な指輪を付けている海外の観光客は強盗につけ狙われるそう、「万一強盗に遭遇したら、躊躇することなく指輪を渡してください。さもないと指ごと切り落とされます」。夕食のレストランがわずか50メートル先なのに、怖くてバスで

往復した。

空港で搭乗待ちの間、お客様から預かった荷物を念のために一個ずつひもで結んでおいたら、一瞬ウトツと居眠り中にひもが引っ張られて目が覚めた。思わず「コラッ!」と怒鳴って難を逃れることができたが、安全

であるはずの空港でも油断できない国だった。

マナウスのアマゾン観光で、貸し切りのクルーズ・ボート(宿泊、食事施設完備)を利用したときのこと。道路がなく、すべての交通機関は大小の船によるのがアマゾンでの観光の特徴。我々15名は2泊3日の旅程で、全員が個室か二段ベッドでルーム・シェアした。

3食とも食堂でシェフが食事を作ってくれ、昼間は曳航していた中型観光用ボートで「ピラニア釣り」、夜は「ワニ狩り」とスリルのある体験ができた。

ピラニアは非常に獰猛な魚で、ボートがひっくり返ってしまうと我々が餌食になってしまうので、慣れるまでは恐る恐る釣り糸を垂れた。釣り上げて鋭い歯で噛みつくので、ガイドの船頭さんが針を外してくれる。翌日船のコックさんが唐揚げにしてくれた。

夜のワニ狩りは真っ暗な川に乗り出し、ボートの船先に国家資格を持ったガイド兼漁師が立って、懐中電灯を右左の川岸を照らしながら静かに進む。行く手にピンク色に光る点を発見するや、ボートのエンジンを手

漕ぎに切り替え「静かに、静かに……!」とピンク色の点に近づくと、ワニの目ののだ。

漁師は二つの目の間の広さから体長を判断し、鉾を投げつける。見事に命中したワニは水しぶきをあげながら暴れる。ワニの口先をつかんだ漁師が小脇に抱え、まずロープで口を縛り、次にボートのオールに体全体を縛りつける。ワニの頭は私の足元に来ていて、目を見開いて、鼻の穴から「フーッ!」と水を吹き出し威嚇してきた。

翌朝、捕らえたワニをみんなに見せ「唐揚げにしますか」とガイドが聞くと、全員が「結構です」、川にリリースした。ワニの吹き出す水しぶきと威嚇音が、今でも思い出される。

クルーズを終えて陸に上がり、昼食のレストランに驚いた。「スズラン食堂」という店名で壁にはメニューの札がぶら下がっていて、きんぴらごぼう、みそ汁、たくあん、豆腐など日本と全く同じであった。

インターネットで「マナウスの日本食堂」と探すと30〜50数軒が今でも出てくる。ブラジルに移民した先人のたくましさに敬意を表さずにはいられなかった。



どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

花野川太公望は農夫なり

近藤 昌平

引越しや八十路に重き秋の風

富久光

霧の海尾根に鉄塔浮かびけり

片岡 正人

咲き初めの山茶花相手に独り言

隆愚

藤袴あさぎまだらの四・五十頭

大槇 三代子

廃屋や侘びて錆びてつたもみじ蔦紅葉

赤川 冬人

秋雨の中をひた行く東北道

松岡 初枝

山けぶり居て那須は遠かり

投稿&寄稿

候のことば

「すす煤払い」

隆愚

江戸時代、毎年十二月十三日に煤払いをする事が、公家・武家ともに恒例の行事だったそうです。民間でもこれにならうところが多かったと

いいますから、いっせいに大掃除が始まったのでしよう。

この日は、「正月事始（ことはじめ）」ともいって、お正月を迎える準備の始まりの日でした。昔の人は、家の内外のけがれを払い、身を清めてから、お正月の準備をしたのですね。煤払いが終わったあとは、胴上げをして大騒ぎをしたそうです。



「廃屋好き」

赤川仁洋

芸備線ストロールを開始して、自分の意外な嗜好に気づいた。けっこの「廃屋」が好きなのである。過疎地の田舎なので、歩いていると放置されている廃屋が目につく。車であれば通り過ぎてしまいが、気ままな散歩なので、立ち止まってしばらく眺めている。

窓があれば、覗き見趣味だと自戒しながらも、部屋の中を覗いてしま

う。旧いカレンダーやポスター、いつの間にか消えてしまったアイドルが、あどけない笑顔を見せている。商店であれば、名前も覚えていない「新製品」のポロポロの販促チラシが貼られていたりする。

廃屋にも寿命があるようだ。屋根や壁が崩れて半壊したような建物は、もはや墓標のように生氣はない。まだ建造物としての外観を保っている廃屋は、息をひそめて眠っているような感覚がある。根気強く話しかければ、答えてくれそうな気配……。

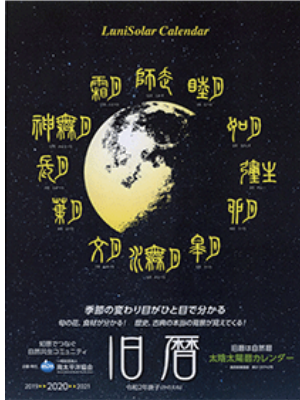
スタイルも、なかなかイケテイルと思うのだ。人工物としての鋭角な部分が風化され、いい感じに景色となじんでいる。日本の伝統美術に「ワビ・サビ」という言葉があるが、意図的ではなく、当たり前前に侘しいのである。自然に錆（寂）びているのである。あざとさが皆無なので、眺めていても味わいがある。

若い頃のイメージの「見捨てられた」という悲哀は覚えない。孤独を通り越した諦観なのか、サバサバとした孤高の佇まい。老境に足を踏み入れ、ひとり旅しかできなくなった孤独癖のある人間の感傷、いや、共感なのだろうか。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

- **一 硬式テニス参加者募集 一**
 MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
 場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
 ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
 ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
 ・土曜日 (10:00 ~ 12:00)
 連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



「旧暦カレンダー」 (販売価格：1,650円)

- 日本の自然に根差した暦 (こよみ) です。
- 太陽暦でも太陰暦でもない、「太陰太陽暦」です。
- 新暦 (太陽暦) も併記しているので便利です。
- 季節の行事や呼び名の意味が、より深く理解できます。
- 自然災害の予測ができます。

どら書房にて令和4年度版 好評販売中！

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集 ● 教室&講座案内
 - イベント情報 ● あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター (現地記者) 募集！
- ※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家 (徳岡佛性坊) として多彩な活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品の展示販売を、どら書房の一角でしています。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を展示しています。あなたのお気に入りの逸品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意！

どら書房無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売 (値札のないものは百円均一)。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

● 黒ニンニク好評販売中！ ●

(青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの
効果が期待できます。

(80g入り 500円)

※売り切れのときはご容赦ください。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052 (赤川)
e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183
協賛: 九日市愛好会

◇「芸備線ストロール」の二回目は平子駅。使いたい写真が多くて、選ぶのに苦心。「石灰焼成窯遺構」やダムカードの画像も載せたかったのですが断念。今回のエッセイのように、機会があれば別枠で。

◇ページ割の関係で、今回も「今月の三冊」は休載、申し訳ありません。新年号は増ページにしても掲載予定です。

◇ストーブを出す季節ですが、灯油が高いのでぐずぐずしています (苦笑)

編集後記

◇新連載の「海外ツアーコンダクター」、著者の山崎さんは以前に「県北群星伝」に登場していたいた方で東城町在住。海外のスケールの大きな体験談が魅力です。

第 245 回

しょうばらくんちいち 「庄原九日市」

令和 3 年 12 月 9 日 (木) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間（440 年前）に物々交換で始まった市（いち）

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し 2001 年に復活

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

12 月 8 日～10 日 10 時～15 時

わら細作品展および高齢者手作り作品展

★どら書房→休憩所あります！！

月曜日と火曜日はお休み

但し、九日市の日は営業します。

★楽笑座「まかない食堂」中 止

★楽笑座「うた声喫茶」再開 13:30~15:00

★きくや→総菜とお寿司の店頭サービス！！

★風龍→九日市スペシャルで餃子 200 円！

★カフェクラウド→タピオカドリンク 100 円引き
九日市特製ピタサンド 600 円

★HONMACHI STAND→コーヒー 100 円引き

出店配置図



出店申込みは、【毎月 20 日締切】コンパネ 1 枚スペース 1,000 円～ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽勝座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

